



## MMFの見解

### 英国における神経膠腫に関する研究

British Medical Journalに1月20日、発表された英国における神経膠腫についての地域集団ベースの症例対照研究は、国際的な調整のうえまとめられるINTERPHONEプロジェクト<sup>1</sup>の一部として発表された最も新しいものです。

脳腫瘍の一種である神経膠腫は、ごく稀な病気です。英国では毎年、10万人当たり約7人がこの病気と診断され、毎年新たな患者が約4300人発症しています。この脳腫瘍は、イングランド及びウェールズにおけるがん全体の1.6%を占めています。

今回の大規模研究で、著者らは以下の結論に達しました。

携帯電話機の使用が短期間でも中期間でも、神経膠腫のリスク上昇との関連はありません。・・・

全体として、我々は携帯電話機の使用による神経膠腫のリスク上昇を見出せませんでしたし、最初に使用してからの期間、生涯の使用年数、累積使用時間または通話件数との関連も見出せませんでした。

MMFは、この結果がこの分野における従来の大部分の研究及び携帯電話機の使用による健康リスクはないと報告している大多数の研究と一致するものであることに注目しています。

既に述べたとおり、この研究は世界保健機関（WHO）の一機関である国際がん研究機関（IARC）が調整のうえまとめられる13ヶ国で実施中のINTERPHONEプロジェクトの一部です。国別研究のデータは個別に発表されています。これらの病気はごく稀に存在するものであり、精度を高めるためには多数の被験者が必要とされることもあり、IARCは13カ国の国別研究のデータを集めた全体的または「メタ」分析を実施します。従って、今年後半と予想されるこの総合分析の結果を待つ必要があります。

デンマーク及びスウェーデンにおける携帯電話機ユーザーを対象としたINTERPHONE Studyは個別に発表されており、ユーザーの脳腫瘍の増加はないことが報告されています<sup>1</sup>。

スウェーデン放射線防護庁（SSI）の疫学研究の考察（2002）では、携帯電話機の使用とがんとの間の因果関係の証拠は何ら示されませんでした。この考察では、携帯電話機の種類、使用期間、使用頻度、累積使用時間、腫瘍の部位及び左右差（腫瘍の部位と通話時に通常用いる手の左右が一致するかどうか）を含む、広範なばく露指標を調べています。

携帯電話機業界は、携帯電話機の安全性に関する全ての疑問を考慮するために、INTERPHONEプロジェクトのような進行中の科学的研究を支援することを強く約束してきました。特に同プロジェクトには、実施される研究の完全な科学的独立性を確実にするため、各国政府及び保健当局と携帯電話機業界が共同で基金を提供しています。

市販されている全ての携帯電話機は、健康と国際的なばく露ガイドラインに従なければならないということにも留意することが重要です。

2006年1月

---

<sup>1</sup> スウェーデンでの研究については、Lönn et al. Long-Term Mobile Phone Use and Brain Tumor Risk. *American Journal of Epidemiology* 161:526-535, March 2005 <http://aje.oupjournals.org/> をご覧ください。デンマークでの研究については、Collatz Christensen et al. Cellular telephones and risk for brain tumors: a population-based, incident case-control study. *Neurology* 64 (7): 1189-1195, 12 April 2005 <http://www.neurology.org/> をご覧ください。スウェーデン放射線防護庁 (SSI) の報告については、Boice JD Jr., McLaughlin JK. Epidemiologic studies of cellular telephones and cancer risk - a review. Swedish Radiation Protection Authority 2002. [http://www.ssi.se/english/Press\\_release\\_rapp2001\\_16.html](http://www.ssi.se/english/Press_release_rapp2001_16.html) をご覧ください。